

経営比較分析表（令和5年度決算）

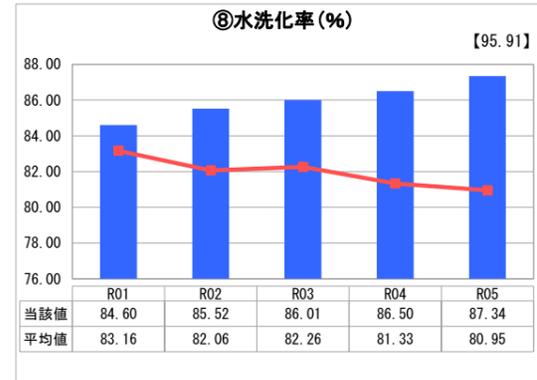
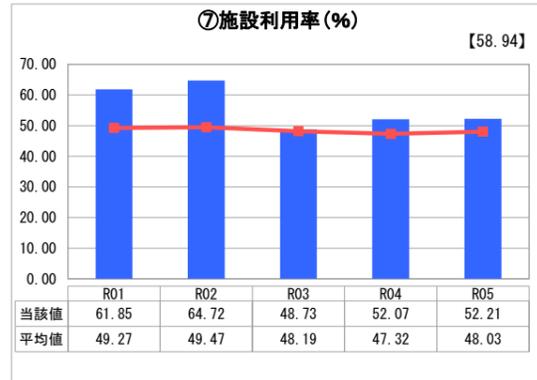
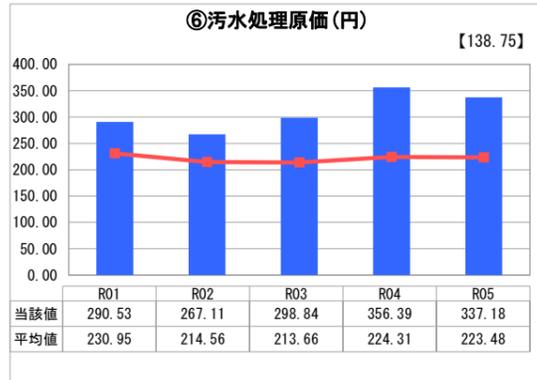
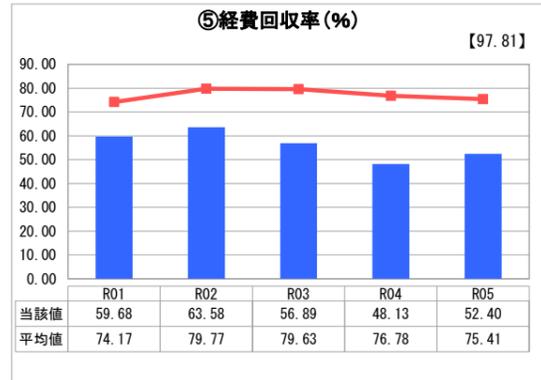
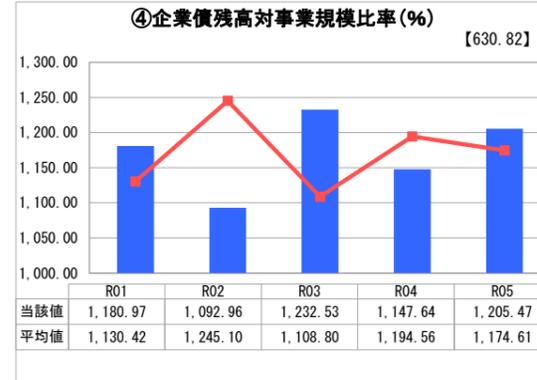
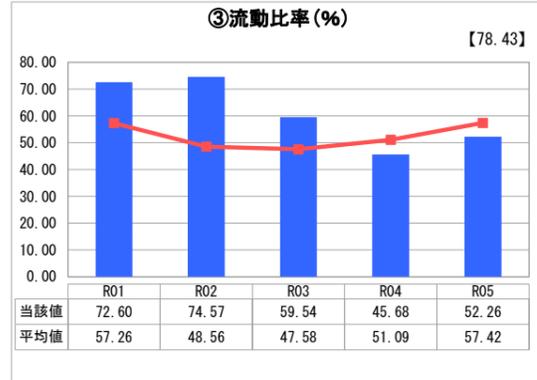
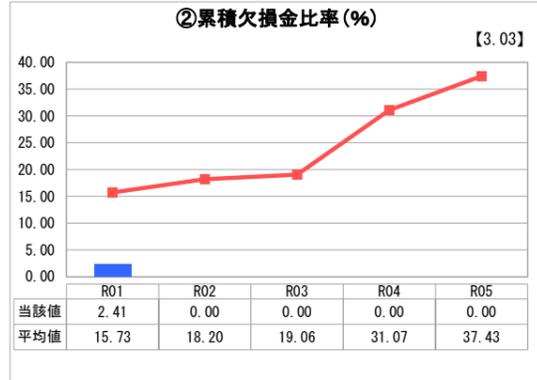
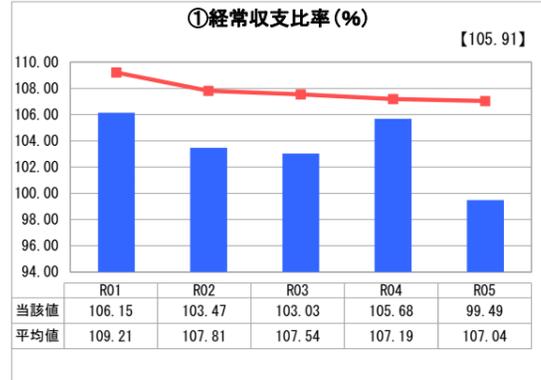
岡山県 矢掛町

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	下水道事業	公共下水道	Cd2	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	有収率(%)	1か月20m ³ 当たり家庭料金(円)
-	61.29	86.71	96.29	3,190

人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
13,273	90.62	146.47
処理区域内人口(人)	処理区域面積(km ²)	処理区域内人口密度(人/km ²)
11,466	5.77	1,987.18

グラフ凡例
■ 当該団体値(当該値)
— 類似団体平均値(平均値)
【】 令和5年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



分析欄

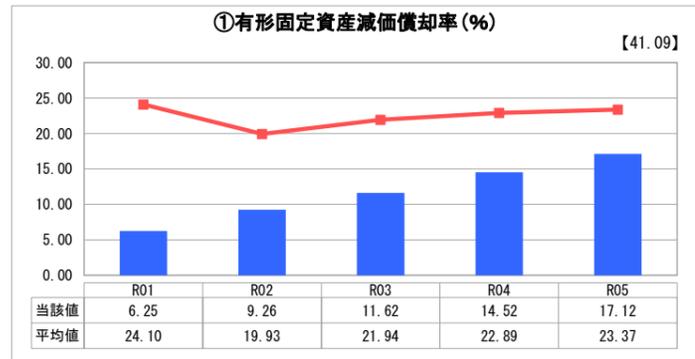
1. 経営の健全性・効率性について

①経常収支比率については、ほぼ収益で費用を賅うことができている。しかし、⑤経費回収率は、5割程度と類似団体よりも低く、使用料収入の増加が課題となっている。
 令和5年度は、純損失を計上する結果となったものの、②累積欠損金は発生していない。
 ③流動比率については、流動負債の80%が翌年度償還予定の企業債となっており、財源は一般会計からの繰入金を主なものとして充てるため100%未満と低くなっている。
 ④企業債残高対事業規模比率については、企業債の償還ピークを過ぎたことから、今後は類似団体と比較して少ない状況に推移していくと思われる。今後も計画的な投資と適正な債務残高の維持に努める。
 ⑦施設利用率は類似団体平均値を上回っており、隣接市から受け入れている汚水処理量が今後増加することが見込まれる。
 今後は、農集統合事業が段階的に完了していくことで⑥汚水処理原価が抑えられる見込みだが、併せて⑧水洗化率を向上させて使用料収入を増やすことで、安定した経営が行えるように改善していく。

2. 老朽化の状況について

平成6年3月の事業認可を受け事業に着手してから29年が経過している。処理場・管渠については耐用年数を経過していないが、計画的に設備等の改築更新を行っていくため、令和元年度に公共下水道事業ストックマネジメント計画を策定した。現在は、この計画に沿って継続的に設備等の長寿命化を図っている。

2. 老朽化の状況



全体総括

当町では、平成29年度をもって面整備を完了し平成30年度より公営企業会計を導入している。
 現在、町内の広域化を進めるため農集統合事業に着手しており、これにより処理施設の維持管理費の削減を図る。
 また、ストックマネジメント計画の策定により、今後の維持管理・施設更新をより効率的に行うことで施設の長寿命化を図りつつコストの抑制を図る。
 使用料収入については、水洗化率の向上による有収水量の増加での収入増を図るが、今後は人口減少による厳しい状況が予想される。そのため、住民に対して現状の理解と今後の使用料改定について周知を図っていく。

※ 「経常収支比率」、「累積欠損金比率」、「流動比率」、「有形固定資産減価償却率」及び「管渠老朽化率」については、法非適用企業では算出できないため、法適用企業のみ類似団体平均値及び全国平均を算出しています。